



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広 報 部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電 話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

彼岸

新質信導

一年を通じて、いちばん日の長い日が「夏至」、短いのが「冬至」。そして、昼と夜が同じなのが、「春分」と「秋分」である。

この春分の日は、国民の祝日に関する法律に「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日であると定められている。

ちょうど春分の頃に今年の豊作を祈る太陽神信仰が起源となっているようだ。太陽は万物を生み育むありがたい恵み、日天子（にってんじ）である。その日天子様に今年の豊作を祈るからこそ、春分の日が「自然をたたえ、生物をいつくしむ」とされているのである。

む」とされているのである。つまり日月、大地、すべての生き物に感謝し、豊年を祈る日なのである。

ところで、彼岸の起源は延暦二五年（八〇六年）、毎年春分秋分を中心とする七日間に、五畿内七道諸国の国分寺の僧に、桓武天皇の弟である崇道天皇（早良親王）菩提のために剛般若波羅蜜経を読経する命令が出され、以後恒例となり、これが後に彼岸会になったという。

また『源氏物語』『蜻蛉日記』『宇津保物語』等に「彼岸」という言葉が見られることから、この頃には彼岸は一般的な言葉となってきたと思われる。

日蓮大聖人の『彼岸鈔』

には「彼岸とは春秋の時節の七日、信仰心をもって、善行を行えば、生死の此岸から苦界の蒼波をしのぎ、菩提の彼岸に至る時節である。ゆえにこの七日を彼岸という」とある。さらに、「この七日のうちに一善の小行を行えば、必ずや仏様の功德が得られる。他の時期に日夜功勞をつくすよりも、彼岸の一日に小善を行うことで大菩提に至ることができ

る。この彼岸の時期を知り小善を行うのが大事である」春秋彼岸の時期に「一善の小行」を行うこと。すなわち、「一善」という法華經の信仰を持ち、善行を行う事を勧められている。ご先祖様やお世話になった方々の供養もしかり、何よりも仏様に法味を言上し感謝の意を捧げ、善行の決意を実行するところにある。

《法華經に学ぶ現代》——純智庵——

一雲の

雨らす所

其の種性に

稱うて

生長する

ことを得る

『藥草喻品第五』

誰もが待ってたこの季節

虫は土から

這い出して

獣は穴から

顔を出す

一雨ごとに温くなり

人も衣を

脱ぎ始め

草木は

蕾をふくらます

殻を破って飛び出そう

老いも若きも

今、青春

【3月の主な行事】

- ☆報恩大祈禱会 1日(日)10時半
荒行僧出仕。水行・特別加持
- ★写経会 8日(日)11時
- ★星嶺演奏会 15日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(日)13時
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時

【4月の行事予定】

- ★写経会 12日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(水)13時
- ★星嶺演奏会 19日(日)11時
- ★星嶺茶論 19日(日)13時
- ★開運祭 20日(月)終日
- ※寺務所窓口にて開運守授与
- ★鷗様月例祭 22日(水)15時
- ※火伏守札を授与

★星嶺祭 29日(祝)

- 11時30分 星の子パレード
- 11時45分 子供祈願大法要
- ※法要後は人形劇、太鼓演奏、子供福引大会など。

星嶺祭参加者募集！

☆星の子（祈禱料三、〇〇〇円）
参加希望者は11時に集合

清掃の日 4月15日11時～12時
境内清掃をする新たな行事です。ご参加を募ります。

《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト冬季運休中
3月20日(祝)から毎日運行。

説の如く修行すべし

中沢勇輝

「如説修行」は勸持品・隨喜品・神力品・陀羅尼品・勸發品などに説かれているが表題のように訳されている。では、説の如くとはどのようなものかといえ、受持・読・誦・解説・書写の五種法師と呼ばれるものだ。功德の多さでいえば「法蓮抄」を解釈すると順序に従う通りであり、受持が最多であるといえる。

受持とは受と持に分けられる。受とは受けること、信心を始めることとなる。持とは持つこと、信心を継続することとなる。また大智度論にいわく、「信力のゆえに受け念力のゆえに持つ」とあり、信心継続には思い続け忘れないようにする努力が求められている。また「諸願成就鈔」にいわく、これを精進と呼ぶ。

つまりは、法華經を信心

し、書写し、伝え、そらんじ、読み、信心を継続することが説の如く修行することになるだろう。またそれにもまして重要な修行というものは南無妙法蓮華經と唱えることだ。唱題行は先に挙げた五種法師の功德にも勝っている。すなわち、「法華題目鈔」にいわく陀羅尼品「法華の名を受持せん者福量る可からず」や正法華經の總持品「もしこの經を聞いて名号を宣持せば徳量る可からず」、添品法華經の陀羅尼品「法華の名を受持せん者福量る可からず」といった經文を挙げてい

る。同鈔には続けて法華經一部八卷二十八品六万九千三百八十四文字を全て受持し、読誦し、隨喜をもってこれを護持していくことを「広」の修行と呼び、方便品・壽量品等を受持したり、護持することを「略」の修行と呼び、神力品の結要付屬、すなわち「以要言之」から

私たちは環境に左右される所が大きい。雄大で美しい山の景色に触れれば、日常の細々したストレスなど吹っ飛んでしまふ。逆に、ゴミの散乱する部屋では気持ちも落ち着かない。掃除は環境を整えるとともに、自身の心を浄化する行為でもある。特に、仏前を清め

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

することは即修行となり功德を積むことでもある。身の回りを清掃することにより、自身の心も清浄な仏の心に近づいて行くのだ。



K.J

俳 壇

（みのり）

閉じられて久しき屋根に草青む

啓蟄や耕耘機の出番となりけり

親筆の一書を展く彼岸寺

一つづつ見届けて吹くシャボン玉

たんぽぽの花まん中におまごこと

法華經茶話

結びにかえて

これまで法華經が成立した背景について概観し、法華七喻について解説してきました。この法華七

世の全ての生物は悟りの境地に至ることが（できる）の教えを一般の人々にわかりやすく説くための譬え話でした。法華經では、日常の仕事があり修行だけに身を投じることが難しい在家者であっても、永遠の真理としての釈尊を信仰することで、悟りに至ることができると説かれています。修行よりも何よりも信仰が一番大切なのです。そして中国を経て日本へと伝わったこの法華經に絶対の信を持ち、宗派として確立させたのが我が日蓮宗の祖、日蓮聖人です。

今号にて、この連載を終了いたします。皆様の法華信仰の一助となれば幸いです。二年間のご愛読、誠にありがとうございました。（栗原啓文）